

ADVENTURERS on SURFACE

# 表層の 冒険者たち 2009 / Vol.3

石井博康 / 芝 章文 / 沼田直英 / 山田ちさと  
薄井崇友 / 後藤 瞳 / 加藤彩子  
酒井香奈 / 崩 清明 / 新山光隆 / 吉田由紀子

ニーチェは、目に見えない奥に、内に、裏に、あるいは彼方に何か真実が、すばらしい理想が存在するという考え方を「背後世界論」と呼んだ。西洋の哲学思想を長きにわたって支配してきたこうした「背後世界論」と手を切るうとしたのがニーチェであり、その彼が、「表面に、皺に、皮膚に敢然として踏みとどまること」というすばらしい言葉を残している。私が「芸術」とりわけ「絵画」について「表層の冒険」というとき、つねに念頭にあるのはニーチェのこの驚くべき認識である。「深み」へ、「内部」へ、「内面」へ安易に逃げてはならない。「表面に、皺に、皮膚に敢然として踏みとどまること」、それが「表層の冒険」である。「表層の冒険」——一言うに易く行ふは難し。「表層」そのものをかけがえのない「自我」として引き受けること。それが「画家」というものである。

— 谷川渥（表層の冒険者たち—2008展カタログより抜粋）

2009年6月9日（月）～2月20日（土）  
12時～19時 日曜・祝日休廊 最終日は5時まで

ギャラリーいしだ [GALLERY IshiDA]

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-5-2 石田ビル  
TEL 03-3241-4993 / FAX 03-3241-6583  
東京メトロ（銀座線/半蔵門線）三越前駅 A4出口から徒歩1分



GALLERY

ART  
SPACE



 <p><b>酒井香奈</b> SAKAI Kana</p>	<p>1969 茨城県生まれ 1994 武蔵野美術大学 大学院 造形研究科 美術専攻 油絵コース 修了 1999 個展ギャラリーαm (東京) 「セゾンアートプログラム ART-ING TOKYO 1999」 ギャラリー繪 (東京) 2008 個展ギャラリーなつか 1999 「セゾンアートプログラム ART-ING TOKYO 1999 21×21」 セゾンアートプログラムギャラリー (東京) 2001 「小林康夫によるセゾン現代美術館コレクション展 筆触のポリティクス」セゾン現代美術館 (軽井沢)</p> <p>いつもと変わらない日。 恐ろしい程感情を揺さぶられる何かがあった日。 大自然の中にいる日。 窓の無い所にもついている日。 良い日、 悪い日。 絵を描くきっかけはどんな日にもある。 でもどんな事でも描けるとは限らない。</p> <p>経験や感動の大小とは関係なく無意識の判断と決断によって絵は描かれてゆく。 「みたい」という、ささやかな欲が「描く」という幸せな行為に導いていく。</p>	 <p><b>後藤 瞳</b> GOTO Hitomi</p>	<p>1984 山形県河北町生まれ 2007 東北芸術工科大学 芸術学部美術科洋画コース 卒業 2007 東北芸術工科大学 大学院芸術工学研究科修士課程 修了 2009 第75回 独立展 入選 (国立新美術館・六本木) 2008 個展、後藤 瞳展 'the spot' Gallery Q (銀座) 「美術館ワンダーランド2008 現実と非現実美のハザマで…」 [安曇野市豊科近代美術館・長野県] 「第76回 独立展 入選 (国立新美術館・六本木) 「それぞれの—東北芸術工科大学6人展—」(銀座スルガ台画廊・東京) 2009 17years洋画コースの歩み展 (銀座東和ギャラリー・東京) 独立春季新人選抜展 (東京都美術館・上野)</p> <p>私は、生きていく上で強くありたいと思っています。 潔として、自分に負けない、諦めない、屈しない「強さ」がほしいです。</p> <p>今私はその理想像を画面上に表現しようとしています。</p>
 <p><b>山田ちさと</b> YAMADA Chisato</p>	<p>1960 東京都生まれ 1987 多摩美術大学大学院修了 1984 神奈川県美術館：神奈川県民ホールギャラリー 神奈川県立近代美術館賞 1986 五つの表現展：文芸春秋画廊 1987 TAMA VIVANT：シーホール 1988 かねこアートG1個展 1994 個展：なびす画廊 1995 個展：不二画廊 1999 個展：湧画廊 2002 個展：コバヤシ画廊 2004 個展：三番町ギャラリー 2006 福島現代美術ウィエンナーレ アートプログラム青梅 2007 個展：ARIKA ART SITE 韓国ゼログループ&amp;不二画廊交流展：京都文化博物館 2008 TAMA VIVANT II イメージの種 2008 表層の冒険者たち展</p> <p>ここ1年位の間にモチーフが自分の中で、ぐっと形になって来たことを感じていた。と同時に自分が決めてやって来たうたわの様なものが急速に固くつらいものに思えて来て、すっと力を抜いてみたくなった。ごく当たり前のフィールド、木枠にキャンバスを貼って描きだすというきわめて常識的なスタートが新鮮で心地よい。危うい光=色が形になったり、ほぐれて溶けたり行ったりするさまを取りあえず見ていたのだ。</p>	 <p><b>加藤彩子</b> KATO Ayako</p>	<p>1984 秋田県生まれ。 2009 東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科修士課程 修了 2006 東北芸術工科大学卒業制作発表展 優秀賞賞状上賞 個展、4年、9ヶ月展、2人展、 2007 山手魂展、トキエーションワンダーウォール (入選)4号展、 2008 5EXHIBIT展、佐藤国際賞英財団17期奨学生展 「それぞれの—東北芸術工科大学6人展—」(銀座スルガ台画廊・東京) 2009 東北芸術工科大学卒業/修了制作展、現在 東京在住 加藤彩子個展 (PICNICA・宮城)</p> <p>「気配」</p> <p>人は必ず目の錯覚を起こす。その錯覚のお陰で、私は目の端に映る微かな気配を感じている事に気付く。その出現は刹那の瞬間であり、もう一度その何かを探るために視点とその場に戻すが、私が見たいものはもうその場所には存在しない。これは目の錯覚、そして私の一瞬の想像力で出現するものである。</p> <p>作品を観る人にも想像力で一瞬の出現物を見つけてもらい、足を止めてじっくり見た時の印象と違う世界を画面の中に発見してもらいたい。</p>
 <p><b>新山光隆</b> NIYAMA Miyako</p>	<p>1979 神奈川県生まれ 2001 拓殖大学工学部工業デザイン科卒業 2002 拓殖大学工学部工学研究科研究生修了 2001 [DAWN OF ASIAN AGE]中和ギャラリー (東京) 2002 個展 小野画廊 (東京) [4th Contemporary Young Painters Exhibition From JAPAN] Zainul Gallery (バングラディッシュ) 個展 小野画廊 (東京) 2004 「ART FIELD出版記念展 あ〜とじよいばらば (東京・大塚) 2005 個展 小野画廊 (東京) 2006 アートプログラム青梅 (吉川英治記念館・東京) その他あ〜とじよいばらばなどでグループ展多数。 2004年特定非営利法人アート農園 設立に参加、理事</p> <p>水たまりや窓ガラスのような、1つの平面を境に透過と反射が同時におきて作られる空間に興味がある。 繋がっているようで異なる空間は、互いに浸透し合い曖昧な前後関係を作った別空間として立ち現れる。</p>	 <p><b>石井博康</b> ISHII Hiroyasu</p>	<p>1977 東京芸術大学油画科修了、 現代日本美術展、板橋の現代作家展、板橋INSTALLATION (花)、 いけばなコラボレーション、版概念(過去・現在・未来を採集刷る版画)展、 C・A・F展、日韓現代美術交流展、Japan/Wisconsin Arts Exchanges (WI,USA) その他個展グループ展多数、現在、東北芸術工科大学教授。</p> <p>80年頃より八ヶ岳山麓にある別荘地近くで採集した「地表の版画(地表に樹脂の溶剤を撒き、樹脂が固まった後でそれを地表からはがして作品にする)」ともいべき作品で注目された。その後ドットやクロス(網)をモチーフとした絵画へと移行。生まれ故郷の岡山県高梁市に流れる高梁川の清流を幼少の頃より橋の上から飽かず眺めていたという。石井の絵画は川の水面に直向に視線を向かわせるといった原体験から、多層なひかりの反射、あるいは水面の皮膜といった絵画が生み出される。 (文責：芝 章文)</p> <p>子供の頃、故郷の高梁川の橋の上から、その清流を飽かず眺めた。真下に見える川底の石や水草はゆらゆらと揺らめきながらも、その位置を変えることはない。しかし膨大な水量は川上から川下へ絶えず移動し続けた。</p>
 <p><b>吉田由紀子</b> YOSHIDA Yukiko</p>	<p>1983 群馬県前橋市生まれ 2006 東北芸術工科大学 芸術学部美術科洋画コース 卒業 2008 東北芸術工科大学 大学院芸術工学研究科修士課程 修了 2003 山猿 [yamazaru] (せんだいメディアテーク・仙台) 2005 せんだいアートフェスティバル (せんだいメディアテーク・仙台) 2006 卒業制作発表展 美術科洋画コース (銀座東和ギャラリー) 生命力展 (Gallery d.g.アートフロントシアター・東京) 2007 個展「むしのいる」(exhibit Live &amp; Moris・銀座) 山手魂 (せんだいメディアテーク・仙台) 虫かご (ガレリアノルド・東北芸術工科大学内・山形) 東北芸術工科大学院展(PICNICA・仙台) 2008 虫かご2個目 (ギャラリー絵遊・山形) 東北芸術工科大学 卒業/修了展 [東京展] (東京都美術館・東京) 東北芸術工科大学 卒業・修了展 [東京展] (東京都美術館・東京)</p> <p>生命に宿る色彩 その輝き 私はこの地球上で生まれ死ぬ生命の営みに強く惹かれる。私の作品は、筆で塗るのではなくスポイトから一滴一滴とすることによって得られる純度の高い絵具を用い、その無数のドットの集積によるオールオーバーな画面で成り立っている。そして、そこに無限の奥行きと広がりを展開させたい。絵画作品としての強度を獲得するために。</p>	 <p><b>崩 清明</b> KUZUSHI Seimei</p>	<p>1998 第17回キャンコン写真新世紀 佳作賞 NOISE 寫真 (ハードソングカフェ/自由が丘) 2000 (ギャラリートークカフェ/経堂) 1998 光に触れる方法 (モリスギャラリー/銀座) 2000 ギャラリートーク 2001 ギャラリートーク 2006 アートプログラム青梅</p> <p>写真とは何か? 何が写っているのか? その映像はいったい何処からやって来るのか? しかしこの問いは我々人間にすら当て嵌る。</p> <p>何故なら人間も又外界からの光線とその眼高の中にある網膜という感光剤に因って世界という映像を立ち上げている或る種の写真機に他ならないからだ。</p>
 <p><b>沼田直英</b> NUMATA Chokuei</p>	<p>1954 北海道生まれ 1979 個展 樺画廊 (東京) 1980 ホアン・ミロ ドローイング展 ミロ美術展 (バルセロナ) 個展 時計台ギャラリー (札幌) 1984 コンパシオン展 グランパレ (パリ) 個展 ギャラリーK (東京) '84、'87、'88 ソウル・ノペンバー展 ハンガングャラリー (ソウル) 個展 とき画廊 (東京) 1987 キアムス '87~'88展 ギャラリーK (東京) 厚川国際アートフェスティバル 信州新町美術館 (長野) 1989 火の素粒子展 エクレーラプラザ (東京) 1990 個展 ギャラリー古川 (東京) 1993 個展 CTIギャラリー (東京) 2002 芝山アート展 (成田) 2006 個展 ギャラリーGAN (東京) アートプログラム青梅 吉川英治記念館 (東京・青梅) 2007 国際野外の表現2007比企展 東京電気大学他 (埼玉) その他フタバ画廊、など個展、グループ展多数。</p>	 <p><b>薄井崇友</b> USUI Takatomo</p>	<p>1960 福島県白河市生まれ。1984発表開始、88?写真を取り入れた作品へ。1991 G.Gibson Gallery (シアトル・USA)と契約現在に至る。 2003 ~概ね発表を中止。 1996 ベーリンガム・ヴィエンナーレ (USA/Bellingham Museum) 1997 New Jersey International Juried Show'97 準大賞受賞(USA/ New Jersey) 1998 福島の新世代'98 (福島県立美術館) 2002 旅人の森で遊ぶ (福島/いわき市市田町) その他個展・グループ展多数。</p> <p>凡日中の中であっても、シャッターを押した時の感覚がいつまでも残っている写真があります。そういった写真を使うようにしています。世間は911もイラク開戦も概ね忘れてしまったように見えますが、個人の感覚には中々消えないものもあるようです。</p>
 <p><b>芝 章文</b> SHIBA Akifumi</p>	<p>1956 和歌山県生まれ。 1980 多摩美術大学大学院修了 1987 今日作家&lt;位相&gt;展。 1988 ニュージャパニズスタイルペインティング&lt;日本画材の可能性&gt;展。 1993 「ヨコハマ現代美術展/横浜の波」 1995 横浜市民ギャラリー30周年記念「第30回今日の作家展&lt;洋上の宇宙&gt;アジア太平洋の現代アート展。 2004 個展「さまざまな眼139」展。 その他、コバヤシ画廊、ARIKA ART SITEなどで個展、グループ展多数。 2004 NPO法人アート農園設立に参加、代表をつとめる。</p> <p>作品のタイトル『MAO』は「真の魚」と書いて空海の幼い頃の名前からきています。絵が未成熟な人間のアウラのようなものとして誕生し、後に空海のように大きく成長してほしいという願いをこめて名付けられました。</p> <p>ゆっくりと「気」が増殖していくように、茫漠とした揺らぎが目前に映し出されていきます。見る人自身が包み込まれるような、また見る人自身の心情が写し返されるような、鏡の絵画として立ち現れてくれればと考えています。つねに揺れ動いているような渾沌とした絵画を描きたいと思います。</p>	 <p><b>谷川 渥</b> TANIGAWA Atushi</p>	<p>東京大学大学院博士課程修了。現在、國學院大学文学部教授。専攻：美学芸術学。著書に、『形象と時間』、『美学の逆説』、『鏡と皮膚』、『文学の皮膚』、『廃墟の美学』、『図説だまし絵』、『美のバロキズム』、など多数。 2009年懸念の書物『シュルレアリスムのアメリカ』をみずす書房より、『肉体の迷宮』を東京書籍より刊行。</p> <p>ニーチェは、目に見えない奥に、内に、裏に、あるいは彼方に何か真実が、すばらしい理想が存在するとういう考え方を「背後世界論」と呼んだ。西洋の哲学思想を長きにわたって支配してきたこうした「背後世界論」と手を切るうとしたのがニーチェであり、その彼が、「表面に、皺に、皮膚に敢然として踏みこまると」というすばらしい言葉を残している。</p> <p>私が「芸術」とりわけ「絵画」について「表層の冒険」というとき、つねに念頭にあるのはニーチェのこの驚くべき認識である。「深み」へ、「内部」へ、「内面」へ安易に逃げてはならない。「表面に、皺に、皮膚に敢然として踏みこまると」、それが「表層の冒険」である。 (中略) 「表層の冒険」——一言うに易く行は難し。「表層」そのものをかけがえのない「自我」として引き受けること。それが「画家」というものである。</p> <p>— 谷川渥 (表層の冒険者たち—2008展カタログより抜粋)</p>

「表層の冒険者たち-2009Vol.3」

2008年10月、2009年2月に引き続き、新たに若いメンバーを加え、絵画に焦点を充てた展覧会を開催致します。制作を続けるという日常と非日常のなかで、淡々と描き続けられてきた個々の営みを、絵画活動の一端を紹介するものです。

絵画の終焉がささやかれて久しい今日、絵画について考えてみると、眼の快楽を超越し、抽象や具象といった歴史的対立概念からも逃れ、言説喚起力を携えた絵画表現が数多く見受けられる。絵図から絵画に移行し、描くこと、観ることの原点に立ちかえり、本来あるべき絵のすがたを想起してみよう。「表層の冒険者たち」と名付けられたこの展覧会に出品された作品群は紛れもなく現在の日本の絵画である。

■企画：NPO法人アート農園 ■協力：ギャラリーいしだ ■印刷：マルチメディアデザイン株式会社

■「表層の冒険者たち-2009Vol.3」発行：特定非営利活動法人アート農園 〒333-0866 埼玉県川口市芝3879 TEL/FAX 048-269-4965 発行日：2009年6月8日 編集室：COAC現代芸術研究所



崩 清明 KUZUSHI Seimei



not-《写真》-波 2008年 297×420mm OHPシート

石井博康 ISHI Hiroyasu



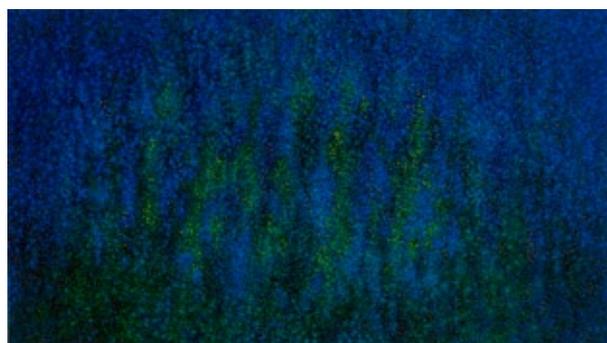
湿地の花 2008年 227×182cm キャンバスに油彩

加藤彩子 KATOU Ayako



「巡」2009年 1620×1940mm パネルに和紙・墨・インク・鉛筆

吉田由紀子 YOSHIDA Yukiko



ハンノアオカミキリ 2008年 1500x2500mm 白垂地に油彩

新山光隆 NIYAMA Mitutaka



交差する視点 2008年 60×84cm アクリル・キャンバス

後藤 瞳 GOTO Hitomi



「the spot~small article~」2008年 652×530mm パネルに油彩

芝 章文 SHIBA Akihumi



MAO-3060408 2008年 45.5×53.5mm キャンバスに油彩

表層の冒険者たち2009開催によせて

「表層の冒険」・・・言うに易く行は難し。  
「表層」そのものをかけがえのない「自我」  
として引き受けること。それが「画家」という  
ものであろう。  
表層の冒険者たち・・・出でよ！

— 谷川渥（表層の冒険者たち—2008展カタログより抜粋）

薄井崇友 USUI Takatomo



「スカイブリッジ」 2008年 600x600mm アクリル、ガッシュ、感光乳剤、板

沼田直英 NUMATA Thokuei



「浮遊する抱擁 '09-A」2009年 900x600cm キャンバス アクリル

酒井香奈 SAKAI Kana



「月とおおかみ」2008年 900x900mm パネル・寒冷紗・消石灰・顔料・アクリルメディウム

山田ちさと YAMADA Tisato

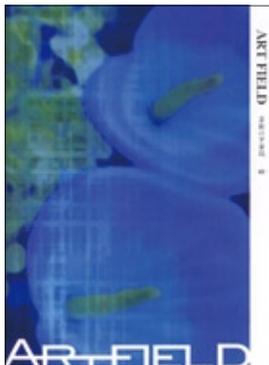


「Fragile」2009年 920x920mm キャンバスに顔料、アクリル

## 美術雑誌「ART FIELD」バックナンバー

■ 購入方法：ホームページにてお問い合わせください。 <http://www.art-nouen.jp/artfield.html>

United Art Plantation Representative  
特定非営利活動法人アート農園



### ＜芸術の宇宙誌－01－

定価：1000円 [ 本体価格952円＋税 ] (在庫少)

互助会制から後援会制へ … 松永 康  
当世美術館事情 … 谷 新  
MASC公開講座 … 芝 章文  
グランド・ゼロと建築 … 飯島洋一  
魔罐の表象史 … 谷川 渥



### ＜芸術の宇宙誌－02－

定価：700円 [ 本体価格667円＋税 ]

【特集】映像というメディア  
明滅運動と映像表現 … 萩原朔美  
映画と絵画 … 谷川 渥

### 芸術の宇宙誌－03－▶

定価：700円 [ 本体価格667円＋税 ]

【特集】身体論  
座談会 ― 身体の表われを読む  
常心門少林流空手道宗師範池田泰秀氏に聞く  
… 谷川渥、萩原朔美、芝章文、大橋紀生  
A Second Skin―現代美術における「もうひとつの皮膚」… 渡邊晃一  
芸術と医学の蜜月―レオノール・フィニの場合… 小池寿子  
ボデ・スケールについて… 中山正樹  
さりげなさについて―ルネサンスの優美論に  
現われるダンスへの問い… 木村 寛  
肉体論の水準を知る―「肉体作品」、「デーモンと迷宮」… 谷川 渥



### 芸術の宇宙誌－04－▶

定価：700円 [ 本体価格667円＋税 ]

【特集】戦後日本美術60年 1945-2005  
1970年―大阪万博とインターメディアの空白… 暮沢剛巳  
「物語」をこえること… 千葉成夫  
回想のなかの1960年代的美術… 早見 堯  
戦後日本美術の自主的な文脈… 中村英樹  
戦後アヴァンギャルド芸術私観… 針生一郎



特定非営利活動法人  
**アート農園**  
NPO United Art Plantation  
— 会員募集 —

アート農園では新規会員を募集中です。アート農園の目的に賛同された方、興味をもたれた方は活動に参加してませんか？  
会員の種類と、現在の会費はそれぞれ下記のとおりです。

1. 個人会員、この法人の目的に賛同し、入会した個人。・・・年間一万円
2. 学生会員、この法人の目的に賛同し、入会した学生。・・・年間五千円
3. 賛助会員、この法人の事業を賛助する会員。・・・個人：一口千円、一口以上 法人：一口一万円、一口以上

入会を希望される方は、まずはホームページからメールにてご連絡ください。追って事務局の方からご連絡を差し上げます。  
また、お問い合わせ等もお待ちしております。 <http://www.art-nouen.jp/>